

エチゼンクラゲから 見えてくるもの

総合メディア基盤センター長

岩原 正吉



最近、エチゼンクラゲの大発生が話題になり、事態の深刻さが新聞・TV で取り上げられています。この巨大な生物が小さなプランクトンの大量発生と深い関わりをもっており、遠く中国沿岸の近くで発生し、豊富な食料と決定的な天敵の不在により爆発的に増殖しているとの仕組み解明は私達を震撼とさせるものがあります。思わず、マルサスの人口増加メカニズムを思い出してしまいます。この爆発的増殖を止める有効な手立てもなく、このまま周囲の環境条件が続き、推移するとしますとエチゼンクラゲの食料がなくなる限り、その増加は止まらないこととなるような気がしてなりません。何千キロも離れた場所に航空機であつという間に移動できることを体感していますが、能登沖の海岸が中国の沿海と繋がっているとしっかり実感しているかと言うといささか自信のないところでしょうか。地球上の多くの地点が繋がっていることは自明ですが、そのことをもっと強く意識するとともに、相互の影響について真剣に考えていかなければなりません。

ブロードバンドネットワークで繋がりは始めた現在の私達のネットワークもそうした事例の一つであることをしっかり意識し、新たな状態に困惑されることのない仕組みと取り組みを強化していきたいものです。

終わりに、私儀、平成 17 年 4 月前長野勇センター長の後を受けまして総合メディア基盤センター長を拝命致しました。改めてよろしくご指導・ご鞭撻いただけますようお願い申し上げます。